

# 地元児童学習スペース

## 松江・横浜 ヨコバマCoffee

### 島大生週1回 勉強サポート

松江市横浜町の交流拠点「ヨコバマCoffee（コーヒー）」で週1回、島根大の学生が子ども向けの学習スペースを開き、勉強をサポートしている。新型コロナウイルス禍で学校が休校にな

るのを見て「地域に学習スペースが必要だ」と発案した。子どもたちの居場所づくりにもつながり、喜ばれている。

（片山皓平）



寺子屋で児童（手前）の勉強をサポートする島根大生＝松江市横浜町、ヨコバマCoffee

教育学部4年の田村和也さん(22)が発案して仲間呼び掛けた。全国各地でカフェを使った学習スペース運営を支援するNPO法人「Cafe de 寺子屋」（静岡県）と連携。情報交換しながら5月から準備を進め「寺子屋はーま」と名付けて、今月7日にスタートした。

商店街の旧神具店空き店舗を活用して、イベント的にカフェを開くヨコバマコーヒの休業日にスペースを借り、地元の子どもを対象に毎週火曜か水曜の午後5〜7時に開く。

ただ単に知識を教えるのではなく、子どもが疑問を見つけて自ら考える力が付くよう心がける。例えば、子どもがテーブル上のアクリル板に光が反射するのに興味を持たせ、光の反射の仕組みをひもときといった具合だ。大学生は、児童一人一人に書いてもらった学習の振り返りノートにコメントを付け、当日の反省点を共有する。

持田奈々さん(8)は「大学生と話したり、勉強したりできて楽しい」と笑顔で話した。子ども居場所をつくらうと考えていた横浜町内会の景山弘一会長(67)も「保護者の反応も良く、いい場所をつくってくれてありがたい」と期待する。田村さんは「地域の方にふらっとのぞいてもらえるようにして、子どもたちのために一緒に活動していきたい」と意気込む。

15日は児童7人が利用。

松江市立中央小学校3年の